

館長のガラストーク

「生きもののガラス」展

「生きもののガラス」展が始まりました。この展覧会には有松啓介さんが制作した動物や植物をテーマにしたガラス作品が166点展示されています。コンパクトな当館の2階企画展示室に、馬や金魚、十二支の動物たちがひしめいています。

4月2日と3日には有松さんが来館し、妖精の森ガラス工房で当館のスタッフと共に、「妖精の森ガラス（国産のウランガラス）」でさまざまな「生きもの」を制作しました。

「金魚」は、一つひとつヒレや頭の向きが異なり、目には赤いガラスが使われていて変化に富んだ表現がなされています。「龍」は背中から尾の先に至るヒレの扱いや尖った爪の先、開いた口の中の舌、口の端から始まり顔に沿ってうねうねと長く伸びるひげや突き出た角の扱いに細心の注意が払われています。

チェスの駒を象った「午（ナイト）」の一つには、脚部に特殊なガラスの粉末を使って鈍い金属光沢が施され、ガラスとは少し異なった質感を生み出しています。「ホオズキ」では、六角状の萼（がく）の部分が袋状に果実を包んでいる入れ子構造をガラスで再現するという、技術的にはとても難しい課題に取り組み、



公開制作の作品：蛍光灯照明



公開制作の作品：紫外線照明



龍を作る有松さん

みごとにそれを実現しています。

このように、さまざまな色ガラスの作品に、ウランガラスの「生きもの」たちが加わり、展示室は一層にぎやかになっています。ぜひ、この機会にご覧下さい。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

＜展覧会情報＞春～夏期企画展「生きもののガラス-有松啓介ガラス作品展」
2014年4月2日(水)～2014年9月8日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

旧森江家住宅 修理完了

国指定文化財（建造物）の江戸時代の民家「旧森江家住宅」の茅葺屋根の修理が完了しました。

茅葺屋根は、平成十一年度に全面葺替を行ってから十数年が経過し、屋根表面の茅の腐朽が進行していたため、このたび文化庁の許可を得て、表面の茅のみを取り替える差茅を行い、棟木を当時の寸法で新調しました。

町内では数少ない国指定文化財ですので、今後も文化財保護に努めていきたいと思えます。機会があれば新しくなった旧森江家住宅へ是非見学にお越しください。

通常は施錠していますので、見学の際には富振興センターまたは富公民館に連絡して下さい。入場無料です。

